

石川県地域の支え合い活動事例集

はじめに

本県では、地域活動を担う世代の人口減少や、地域の助け合い機能の低下など、地域福祉を取り巻く環境変化に対応するため、「石川県地域福祉支援計画」を策定しています。

県民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、公的サービスによる対処だけでなく、地域における支え合いの充実を図り、これらの一体的な提供を通じて、自立した日常生活を支える社会環境づくりが必要です。

このたび作成した「石川県地域の支え合い活動事例集」では、地域における支え合い活動を推進するため、県内で積極的に取り組まれている地域の福祉活動を紹介しています。

本事例集が、これから地域福祉活動を始めようとする方々や、これまでの活動をさらに広げようと考えている方々に役立てていただければ幸いです。

特色 地域と障害者施設の交流

たかしな地区活性化協議会と青山彩光苑（七尾市）

経緯・取り組み

- ・高階地区の太鼓サークル「高階くれない太鼓」が平成8年結成。当時から、地区内にある社会福祉法人青山彩光苑（障害者支援施設）の夏祭りやイベントで出演していた。
- ・見学していた青山彩光苑利用者から「私もやりたい」との声があり、太鼓交流が始まった。
- ・平成25年から、くれない太鼓が「青山彩光苑ライフサポートセンター」に出向き実技指導で交流が続いている。
- ・令和2年には、同法人の「さいこうえんの障害者や生活支援センター」（地域活動支援センター）利用者が高階地区コミュニティセンター（以下、コミセン）まで出向き太鼓交流を行っている。また、コミセンに手話ができる職員が入ったことから、太鼓交流の他に、手話教室も始まっている。

たかしな地区活性化協議会

たかしな地区活性化協議会は、高階地区にある9つの町会で構成されており、高階地区コミュニティセンターを拠点に地区の活性化を目指して設立。

人口千人足らずの農村地域で、障害者支援施設、小規模多機能型居宅介護施設、障害福祉サービス事業所、生活介護事業所の他、古民家カフェ、ゲストハウスもあり、住民交流によるコミュニティ活動が活発に行われている。

嬉しいできごと

- ・青山彩光苑開設当初から小学校や地域町会でごく自然に交流がうまれた。また、その活動の維持に地域の諸団体が応援してくれているなど、住民の障害理解と配慮の環境づくりを感じる
- ・青山彩光苑家族会で高価な太鼓を購入していただき、太鼓交流を後押ししてくれた。
- ・交流当初からの利用者さんが欠かさず元気に参加され、生きがいになっている。

工夫・改善

- ・太鼓交流の場をコミセンと福祉施設の2か所で行っている。利用者にとっては施設外の風を感じることができ、地域住民にとっては施設を知る機会になっている。
- ・コロナ禍で太鼓を発表する場が減ったため、その場を設けていきたい

太鼓・手話交流



障害のある人も参加しやすいよう、一人一人のペースで楽しんでいます



覚えた手話で一人ずつ自己紹介



童謡「ふるさと」を手話をしながら歌いました

特色 不登校や引きこもり等の支援

若者支援の拠点 居ばしょ食堂（七尾市）

経緯・取り組み

- ・障害福祉サービスなどを運営する一般社団法人「ともえ」では、七尾や周辺でもいじめや家庭事情などで不登校になる子どもがいて、保護者からも悩みを抱えているケースに出会うことがあった。
- ・青年期への支援がその後の長い人生に大きく影響すると考え、概ね 22 歳以下を対象に令和 4 年 12 月から支援の拠点「居ばしょ食堂」を始めた。
- ・気軽に立ち寄ってもらえるように「食堂」を名乗っている。
- ・七尾市内の各学校や七尾線沿いの駅にチラシを置いてもらい、ひそかに悩み苦しむ人が発信しやすいよう電話や SNS で 24 時間メッセージを受けとめ、連携する行政、関係機関に相談しながら、一緒に考える姿勢を大事にしている。
- ・同じような悩みを抱える保護者らが思いを共有できればと家族の集い「UCHI(うち)」も開催。子どもと繋がっていない保護者だけの参加も受け入れている。

嬉しいできごと

- ・悩みを抱えていた子どもたちがアルバイトを始めたり、将来の夢を語りだすタイミングに遭遇したとき
- ・近隣の商店、ボランティアの方などから居ばしょ活動に使ってほしい、と余剰食品の寄付をうけることも増え、地域から温かく見守っていただいている
- ・医療機関や教育機関に相談を持ち掛けるだけでなく、相談を受けることも増えてきた。関係者ネットワークの層が厚くなってきたことを感じる

支援の軸

- ・福祉でも教育でもない場を提供し、一緒に自分の未来や生き方について個別の体験を通して考える
- ・障害福祉サービスや関係機関のネットワークを活かしケース会議を行い、専門機関への繋ぎも行う
- ・できる限り家族も含めた家族支援をめざす

悩み

- ・福祉サービスではない、制度のはざまを対応しようとすると、活動を継続するための財政支援が少ない

居ばしょ食堂

なんで私だけ？

将来が不安

誰にも言えない

学校嫌いや
親が嫌い

行く場所がない

つらい時や、先が見えない不安、
この先どうすればいいんだろう…

そんな気持ち、私たち大人にもありました。

学校のこと・家に帰りたくない・いじめられている…

話してください。

あなたの「つらい」を考える場所がここにあります。

電話、各SNSのメッセージでも大丈夫です。

連絡を待っています。

☎ 0767-58-6339

〒926-0813
七尾市南藤橋町
巳7番地63

運営：一般社団法人ともえ

すぐに出られない場合や返信できない場合がありますが、絶対にお返事します。



@7am9358b

@ibasosyoku

@ibasosyoku

特色 地域の居場所づくり・高齢者引きこもり防止

矢田町普久良会ミニデイ倶楽部（小松市）

経緯・取り組み

- ・矢田町の老人クラブ普久良（ふくら）会と民生委員が協議し、平成29年度から市社協の助成を受け、矢田町公民館を拠点に活動をはじめた
- ・「いきいきサロン」では、毎週1回、健脚体操を推進するボランティアによる健康教室や、市の介護予防講座派遣事業を活用し企業・団体の専門職による講座も取り込んでいる
- ・「ゆったりサロン」ではどなたでも気軽に参加できるよう茶話会や趣味の活動（麻雀、手芸、カラオケなど）を住民の好みで参加している
- ・コロナ禍で開催を控えていたが、感染防止に努め、令和4年度には年間110回・のべ481人が参加した

連携団体

- ・南部第二高齢者総合相談センター
- ・矢田町こども会
- ・小松市、小松市社会福祉協議会
- ・老人クラブ普久良会
- ・矢田町いきいきサロン
- ・民生委員児童委員
- ・自主防災会

嬉しいできごと

- ・ミニデイ倶楽部を高齢者のサロンとせず、住民どなたでも参加できる場としている
- ・手芸を習いにくる若い世代や卓球で汗を流す子どもたちなど、公民館がまちの財産になってきた
- ・手芸や卓球など住民で得意の方に講師を担ってもらっている
- ・年齢を重ねても得意分野を活かせる場になっている
- ・「大人がつながり、どんな年代でも受け入れてくれるまちは子育てもしやすいまちに感じます」（転入された住民から）

工夫していること

- ・個人で抱え込まず組織にゆだねる
- ・フレキシブルに発言しやすい組織づくり
⇒後継者の育成をめざす
- ・助成事業で資材や遊具を購入し、活動のマンネリ化を防ぐ

ある日のゆったりサロン



家で作っているよりみんなでおしゃべりしながらが楽しいです



オープニングはみんなで体操

男性が参加しやすい活動も



特色 農林漁福連携で奥能登地域の活性化を (株)奥能登元気プロジェクト (輪島市)

経緯・取り組み

- ・金沢市及び白山市において、建築業と福祉事業を営み、建築現場から出る端材や規格外の野菜を利用した商品の開発・製造・販売に取り組んでいた
- ・奥能登地域の農家から規格外のブルーベリーの活用について相談を受けたことから、奥能登地域で農福連携の活動に取り組むと考え就労移行支援事業所「奥能登 WORKS スタジオ」を開所
- ・このほか、障害者本人や保護者などの相談に対応する相談支援事業を「ココスタ」で、規格外農産物を使ったレトルト食品の加工等を「ココハサトマチ」で運営
- ・規格外農産物を使ったレトルト食品の試作と商品の包装を施設で行い、農家の所得確保と障がい者の工賃を確保

嬉しいできごと

- ・もともと JA だった建物を買い取り、食品加工・飲食業「ココハサトマチ」を開所。
- ・地元農家が作ったじゃがいもやナス、きゅうりなども置いて地産地消に役立っている。
- ・最寄りのスーパーまでは車がないと行きにくいいため、車を手放した高齢者の買い物にも役立っている。

連携した団体

- ・地元農家
- ・能登井事業協同組合
→余剰食材の利活用を行っている。加入店は個人経営がほとんどで、コロナ禍での打撃が大きかった
- ・廃業した輪島市商業施設「ファミィ」
→廃業した際、いらなくなった冷蔵庫や冷凍庫を買い取った。ココハサトマチに設置している冷蔵庫等はほぼ中古品。

今後の展望

- ・障がい福祉サービス事業所と1次産業が連携することにより、1次産業の人手不足や後継者不在の問題を解消するとともに、将来的に就職を希望する施設利用者と一般企業とのマッチングを行い、奥能登地域の活性化を図りたい。
- ・就労支援事業所で作成した能登ヒバの消臭チップや消臭スプレーを普及させたいと思っている。公共施設等に置かれるようになれば、民間企業にも浸透してき、能登ヒバの認知度上昇にもつながると思う。

農・林・漁福連携による商品開発・製造・販売



奥能登元気プロジェクト事務所



能登ヒバを使った消臭チップ、消臭スプレー



輪島ふぐや能登しいたけなど地元食材を利用し商品化されたレトルト食品



地元農家が作った野菜なども置いて地産地消に役立っている。

特色 こどもや高齢者の「孤食」を解消 世代間交流の場 オアシスつるしん（能美市）

経緯・取り組み

- ・施設の活用方法を町会で相談した際、コンビニや飲食店でこどもだけで食事をとっている様子を見かける、町会内の高齢者やひとり親世帯の数からもニーズがあるのではないかとカフェ運営から開始。
- ・現在、1階では調理ボランティアによる「オアシスつるしんカフェ」のモーニング・ランチ、「ごはん処あい愛」の夕食を提供（どちらも子どもは基本無料）。2階では健康マージャンができる娛樂室になっている。
- ・展示コーナーを常設しており、地域の人々に趣味の写真や制作物の発表に利用。寄付でいただいた書籍・マンガも設置。
- ・放課後児童クラブへこどもを迎えにいき、夕食を提供。保護者のお迎えまで一緒に過ごす活動も始めた。

オアシスつるしん

能美市緑が丘町会は、町内の鶴来信用金庫緑が丘支店だった空き店舗を地域住民が集える施設「オアシスつるしん」として改装。

令和2年12月、コロナ禍の中、こどもたちから高齢者までの人々に地域の力を活かして、安全・安心な食事と居場所を提供することを目的に、みんなの交流の場としてオープン。

工夫・改善

嬉しいできごと

- ・地域の飲食店から備品や食器の提供、平時の食材も近隣の農家や企業から寄付をいただいた。
- ・町会の友誼団体にそれぞれ役割を担っていただいている。顔を合わせる機会が増え、委員会どうしの横のつながりが強まり、新たな取り組みもうまれた。
- ・活動をとおり、日頃の町会運営や地域の困りごとを自然と話す機会にもなり、次世代育成につながっている。

- ・ムービーシアターや夏休み勉強会など催しも企画し、幅広い世代から多くの住民に足を運んでもらうよう工夫している
- ・ごはん処あい愛は4つの調理ボランティアグループが担当。活動日を月に1回程度にするなど負担軽減に努めている。
- ・活動全般、果敢に変化・進化させようという心がけている。このことで新たな人材が生まれ、活動のマンネリも払拭できていると感じている。

オアシスつるしんの ひとこま



←コーヒーチケットも発行しています



掲示板でご寄贈者を紹介→



信用金庫の面影を残した外観、内装



麻雀の日。昼食休憩は1階カフェで



小柳 緑が丘町会長(左)
オアシスつるしん 池田館長(右)

特色 障害者が活躍する農業

誰もが活躍できる場を 笠間農園（内灘町）

経緯・取り組み

- ・平成 29 年、障害者に農業をさせてほしいと知人から依頼を受ける
- ・作業療法士として病院勤務の経験のある妻は、農業にリハビリ効果があるのではと前向きにとらえる
- ・これまで障害者との関わりや、ともに過ごした経験のない夫は、一緒に働くことのイメージがつかず不安
- ・他の従業員との調和を保ち、仕事の流れに影響がでない範囲で受入れてみることに
- ・施設外就労を受け入れ 7 年。現在、年間7事業所と締結
- ・小松菜や枝豆などの農作物を A 型、B 型事業所の利用者の特性に合わせて作業を提供している

工夫している点

～障害の特性を理解する～

- ・農作業の細分化
収穫、下葉処理、計量、袋詰め、箱詰めなどに作業を分類し、できる作業に特化する
- ・見える化の徹底
誰もがわかるように実物を用意、決まりごとはわかりやすく書き、掲示
- ・身体機能に合わせ
ちょっとした環境整備や治具を使用し、無理のない姿勢での作業を追求

継続する秘訣

嬉しいできごと

《利用者》

- ・自然のなかでの作業は感じたことのない匂いや空気
で気持ちよさが違う
- ・体力、適応力が身に着き自信がつく
- ・様々な作業を体験でき、向き不向きがわかる

《福祉事業所》

- ・県が農家と障害者就労施設とのマッチングを行ってくれた。施設が個別で開拓するのは困難だった

- ・農家、福祉のお互いが柔軟性を持ち、双方に利がある方法を模索する姿勢をもつこと
- ・受け入れにあたっての準備（環境を整える、どのようにすれば続けられるか考える意識など）が大事
- ・お互いが歩み寄り工夫することで、障害も年齢も関係なく、誰もが活躍できる共生社会が実現する

笠間農園 夏のある日



枝豆収穫の繁忙期に伺いました



←小松菜
下葉処理と根の
トリミング



枝豆の仕分け 楽な姿勢の高さ、箱の色をかえる、箱に紐を付けるなどでルールを見える化



枝豆の選別 得意な作業で受け持つ位置を決める

「石川県地域の支え合い活動事例集」

発行：令和5年11月

石川県健康福祉部厚生政策課

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL076(225)1411 FAX076(225)1409

社会福祉法人 石川県社会福祉協議会

〒920-8557 金沢市本多町3丁目1番10号
TEL076(224)1212 FAX076(222)8900